

未来の北海道をつくる多様なフィールドからの挑戦

市民が森を守る新しい力になる

ヤマモリになりたい

5歳くらいの時だったかな。家秋田県5城目町の近くの雪道を、大きなリノクを担いだ男の人たちが、スキーを履いて森の中に入っていくのを見た。ものすごくカッコよく見えて、父に聞くと「ヤマモリだぞ」と。森林をよく知り管理する専門家を、あの頃は「山守」と呼んでいて、「ヤマモリ」という響きとその姿が忘れられなくて、中学校の頃にははつきり「森の仕事をしたい」と思うようになりました。

ふり出しは大畑営林署(1952)そして北海道

洞爺丸台風で発生した膨大な風倒木の伐り出しのために全国の林業マンが北海道に集められることになり、青森営林署で募集があった時、「2年で元の職場に復帰できる」という条件だったので、一番先に手を挙げました。そのまま60年近くをこらして過すことになるとは、思いもよらなかった。

単一樹種植林から天然林施業へ

天然林を皆伐して、成長の早いカラマツ、トドマツなどの樹種に転換すれば、1畝あたり3立方メートルの毎年の森林蓄積増加量が、8立方メートルという机上の計算は、先枯れ病や枝枯れ病でその通りにはいきませんでした。おのおのの場所はその樹種の生育に適しているのだから、その樹種を尊重しつつ適切に人の手をかけて林分(樹種)ごとのかたまりごとに生産力を高めようという天然林施業へ、1973年転換しました。

市民に国有林が開かれ

札幌森友会ができた

僕は個人的に森歩きのカイロ役などを引き受けるようになったんです。すると、くちコミで評判を聞いた方たちから「次はいつどこでやるんですか」といった問い合わせが頻繁に僕のデスクに入ってくるようになった。それで職場に迷惑かけられないと思って、定年まで2年を残して退職しました。その時に、かつて勉強会や森歩きの会に参加してくれていたメンバーと設立(1991)したのが森友会です

ポランテアにも山守の誇り

札幌森友会はこんなふうにはじめはレジャー感覚のアウトドア活動だったのが、だんだん森づくりのポランテア活動団体に移行していったわけですが、2003年には団体名を「森林遊びサポートセンター」に変更してNPO法人となりました。活動がこれだけ長続きしているのは、やっぱりフィールドの魅力のおかげだと思います。植樹にせよ除伐にせよ、「札幌の水源地を守っている」「支笏湖の森を美しく保っている」という自負、もちろんプロのヤマモリではないんだけど、ヤマモリと同様な誇りのようなものを、ポランテアの人々が感じていると思うんです。

森遊びの先生

北海道森林管理課の「もりの学校推進事業」の一環として、札幌市立藤の沢小学校の学校林「小鳥の村」の再整備に協力することになったのは2009年でした。160人ほどの小さな学校ですが、こん

もりしたり杉の森の広葉樹を手入れし

直して、子どもたちやその保護者たちが自然観察をしたり、自由に遊び回ったりできる美しい森を蘇らせよう、と地域の人に学校に集まってもらって、これからこんなふうな森づくりを進めたい。と説明会を開くことから始めて、植林や下草刈り、遊歩道作りなど、数年かけて森の整備を行い、小鳥の村「げんきの森」をオープンさせました。以来、ここをフィールドに、毎年、子どもたちと森の学習会を続けています。そうした中でつくづく思うのは、人間の育成のためには、実際に体験してみることが本当に必要なんだな、ということです。

みんなで「げんきな森」をつくろう

最初の入り口は植林になりがちです。でも、実は山に苗木を植えただけではうまく育ちません。病気に気がついたり、まわりの草を刈り取るなど、植え付けをしてからせめて7年間は世話を続ける必要があるんです。

これまで、林業技術はプロの専有物でしたが、後は、社会のいろいろな層の人たちが森づくりに関わることで、きっと「げんきな森」が生まれます。

だから、僕の最近の決めゼリは、こんな風です。「みんなでげんきな森づくりに参加して、みんな森を守ろう！」ってね。

(小林 文男)

環境中間支援会議・北海道 編集・発行 (2014・1・31)「もうひとつの北海道環境白書 2」から要約転載いたしました。

年度別 行事別 活動の記録 一覧表

活動内容	平成・年度	19年	20年	21年	22年	23年	24年	25年	26年	27年	28年	29年	30年
㉓ 自然観察・登山		↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑
㉔ 道民森づくりの集い			↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑			↑
㉕ 日中友好交流会		↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑

優しいタツチ 心癒やされ



プリムラ (第6号)



エゾエンゴサク (第8号)



エゾリュウキンカ (第18号)

もりのとも 表紙絵美術館

(ボタニカルアート)

浦嶋 好江



ハマナス (第7号)



ナナカマド (第15号)



フクジュソウ (第22号)

もりのとも 表紙絵美術館

(ボタニカルアート)